

否定的意見が大勢

「議会内閣制」でフォーラム

改革
フォーラム
議会

自治体議会改革フォーラム(呼掛け人代表・廣瀬克哉法政大教授)等主催の「これが議会改革?自治体『内閣制』に関する緊急フォーラム」が三月二十七日、都内で開かれ、地方自治法の抜本改正に関して橋下徹大阪府知事が提案している「議会内閣制」などをめぐり、廣瀬教授や江藤俊昭山梨学院大教授、地方議員代表らが意見交換した。フォーラムでは、議会基本条例や、総合計画条例など各議会の「内発的議会改革」(廣瀬教授)の取組みが報告された上で、「議会内閣制」については否定的な意見が大勢を占めた。なお、フォーラムには松本英昭元自治事務次官や西寺雅也元多治見市長らも傍聴に訪れ、関心の高さが伺われた。

フォーラムでははじめ町議会前事務局長は、議会に、廣瀬教授が「議会内閣制」について、「内発的議会改革の動きを社会的に発信して、二元代表制を機能させていく改革が求められている改革であり、インスタントに解決しようとする改革策は果たして機能するのかわからない」と問題提起。これを受けて中尾修北海道栗山

たほうがよいと強調した。三重県議会の三谷哲史議長は、通常の議会で参考人招致が飛躍的に増加したことや、公聴会の実施、議長マニフェストの取組みなどを報告。「議会内閣制」については橋下徹大阪府知事に会ってきたことを紹介し、「大変危険な考え方を堂々とやっている」「この案は葬りたくないといけな」と指摘する一方、全国都道府県議長会の他県の議長で、与野党が明確な

るには「議会内閣制が」といいう意見も出ていて、相当注意してやらないと気がついた時は大変なことになると述べた。北海学園大学の神原勝教授は、栗山町での総合計画の策定と運用条例について、早ければ五月、遅くとも六月には議決しようとして組み立てられていることを紹介。「議会内閣制」については「首長集権制が強まるのは間違いない」「二元代表制をもっと活性化してい

くべき」と述べるとともに、分権が進めば「二元代表制の妙味が発揮されてくる」との認識も示した。山梨学院大の江藤俊昭教授は、議会内閣制が突出して出てきている状況を指摘した上で、「様々な形態には長所も短所もある。この分析がどのくらいできていくのかわからない」と指摘。会場で傍聴していた松本英昭氏は、廣瀬教授の求めに応じて総合計画への議会の関与などについて地方

自治法の解釈を説明。橋下構想については「今の制度では職員と兼務できないからできないが、兼務禁止の規定をこぼせばできない」とはならないと解説した。一方、西寺雅也氏は「今の首長達の言動が心配」とし、暴走に議会が拮抗する役割を果たしているかが「問われている」と述べるとともに、「住民自治が首長の人気がよって左右されてしまう傾向は非常に心配なことだ」と指摘した。

これらを受けて原口総務相は、議会事務局の共同設置は議会の権能を拡大するものとの考えを強調。議員年金制度については、「大事なものと考えている」と述べ、制度を維持させる意向を示したほか、招集権については、「地方行政財政検査」で議論することになるとの考えを示した。なお、地方自治法改正案は三月二十九日に、「地域主権改革推進関連整備法案」や「国と地方の協議の場法案」などとともに参議院に提出された。



4月2日(金)

平成22年(2010年)

第3526号

週刊・金曜日発行